

「言い訳」

—二稿—

2025/8/3

さいの

〈人物表〉

川田 俊介 (29)

元芸人で今はサラリーマン

猪島 佳織 (28)

俊介の元カノ

石垣 康太 (30)

俊介の元相方

田村 賢 (23)

石垣の今の相方

川田 真由 (26)

俊介の妻

1. 俊介の職場オフィス・喫煙室（夕方）

川田俊介（29）がタバコを吸いながら、退屈そうな顔でテレビのお笑い番組を見ている。

同僚 「川田くんさ、こういうの好きな人？」

俊介 「たまたま付いてるから、見てるだけです」

同僚 「あ、そう。いや、よく見てるからさ」

壁掛け時計が十七時になると同時、

俊介 「じゃ、お先します」

と、足早に立ち去る。

2. 花屋（夕方）

店員 「（赤いバラを手にとって）ご用途は、お祝い用ですか？」

俊介 「ええ、妻の誕生日なんです」

3. 百貨店の化粧品店（夕方）

俊介 「あの、『秋のうるおいコスメセット』っていうのは」

店員 「こちらでございます」

俊介 「（爽やかに）じゃあ、それ一つ」

4. 駅前の交差点前（夕方）

赤信号のスクランブル交差点の前に、人ばかり。

俊介 「（電話に）うん、買ったよ。もうすぐ帰るね。はい」

俊介、紙袋やら花束を持って立っている。

腕時計を見て、満足げな表情。

信号が青に変わり、ゆっくり歩き出す。

男の声 「え、本当にダメ？ ねえ、お茶するだけじゃん」

声の方を振り向くと猪島佳織（28）がナンパ男に絡まれている。俊介、佳織とは気づかず足を止める。

男 「（ヘラヘラしながら）奢るってば」

と、佳織の腕をぐっと掴む。佳織、舌打ち。

俊介、行ってしまおうか悩んだ末、割って入る。

俊介 「（笑顔で）どうもー、連れがお騒がせしてすみません」

男、舌打ち。そそくさとその場を去る。

佳織 「……ありがと」

俊介 「いえいえー。(佳織の方を向いて) げっ」
佳織、俊介の腕をぐっと掴む。赤信号。

5. 喫茶店(夜)

俊介、チラッと腕時計を見る。佳織、沈黙を破って、
佳織 「っていうか、何その格好。スーツだし」
スーツ姿に紙袋と花束の俊介。

佳織 「もしかしてさ……」

俊介 「あー俺さ、今結婚式の帰りなんだよね。事務所の先輩の」

佳織 「え？」

俊介 「うん。これ(紙袋)引き出物で。花も貰っちゃってさ」

佳織 「(紙袋のロゴを見て)引き出物で、化粧品？」

俊介 「そういう業界の人なんだよね、お相手。元々メイクさん」

佳織 「……ネクタイは？ 白じゃなくていいの？」

俊介 「金無くて。その、相変わらずで。ご祝儀も要らないって」

佳織 「……ふーん」

俊介 「……うん」

佳織 「じゃあまだ芸人やってんだ。もう辞めたと思ってた」

俊介 「もちろん」

佳織、ため息のような安堵のような息。

佳織 「じゃあ、なんで石垣に何も言わずに消えたの？」

俊介 「え？」

佳織 「(サラッと)私今、石垣と付き合ってた」

俊介 「(少し落ち込んで)そう、なんだ」

俊介、腕時計をチラッと見る。

俊介 「ごめん。悪いけどさ、今日はこの辺で」

佳織、一枚の紙を机に置く。お笑いライブのチラシ。

佳織 「ちよっと、付き合ってた」

6. 地区センター・大ホール・楽屋前の廊下(夜)

数組のお笑い芸人がネタ合わせ中。

俊介、佳織に強引に引っ張られていて、

俊介 「こんなとこの見ても勉強なんないしさ、ごめんちよっと
やっぱ俺この辺で……」

佳織 「（指差して）石垣、今別の相方とやってんだ」

石垣康太（30）、相方・田村賢（23）とネタ合
わせ中。俊介、驚いて、咄嗟に物陰に身を隠す。

佳織 「でも、あれでもう四人目」

俊介 「え？」

佳織 「なかなか上手くいかないみたいなんだよね」

石垣、大きな声で、

石垣 「老後になったらね、老人ホームに入りたいのよ」

田村 「あーなるほどね。でもちょっと難しいかもね」

俊介、石垣をじっと見て、

俊介 「……テンポ、悪いな」

佳織 「うん」

俊介 「ツツコミと声のバランス合ってないし」

佳織 「うん」

俊介 「こんなことになってるとは……」

佳織 「……俊介さ、どうにかしてくんない？」

7.

地区センター・大ホール・ロビー（夜）

佳織、帰ろうとする俊介を必死に食い止めていて、

佳織 「お願い。一回合わせるだけ。今の石垣見てらんないから」

俊介 「いやいや無理だって。ネタも知らないさ」

佳織 「昔と大体一緒だから。石垣も俊介とやったら昔の感じ思
い出すかもしれないじゃん？」

俊介、スマホに着信。

俊介 「……俺、もう行かなきゃなんだよね」

佳織 「奥さんのところ？」

俊介、動揺。

佳織 「指輪」

俊介 「（ハッと結婚指輪を見て）これはファッションってう
か、左手の薬指につけるの流行って……」

佳織 「私、俊介が居なくなってから一年間、都内の地下ライブ
全部行った。でも俊介、いなかったよね」

俊介 「全、部？」

佳織 「お笑いオタクの意地。あんな夜逃げみたいなことされて

も一応、売れると思って付き合ってたわけだし」

俊介 「あー今別の養成所入ってて、ライブ出れないだけで……」

佳織 「いい加減にしろ」

と、俊介の胸ぐらを掴む。

俊介 「……ごめんなさい」

佳織 「……ちゃんとした辞め方あったでしょ？」

俊介 「最初は少しだけ休むつもりだったんだけど、何かのネタになるかなと思って、知り合いのところで働き始めたら、戻れなくなっちゃってさ……」

佳織、一つ息を吐いて、

佳織 「今更なんで辞めたかなんて、どうでもいい。俊介が今ど

んな暮らししてるかも知らないよ。けど石垣は俊介が誘ったんでしょ？」

俊介 「……うん」

佳織 「だったら責任取れよ。なんで俊介だけ逃げて石垣が苦しんでんだよ」

俊介、頷く。

俊介 「でも、合わせる顔が無いし……」

佳織 「なんでもいいよ。とにかく石垣を助けてろよ」

俊介の手には、化粧品店の紙袋。

8. 地区センター・男子トイレ（夜）

俊介、袖をまくり、鏡台に向かって何やらしている。

9. 地区センター・大ホール・楽屋前の廊下（夜）

佳織 「石垣、この人」

と、ネタ合わせしている石垣に呼びかける。

俊介、フェイスパックの上にアイライナーやリップでぐりぐりと目玉や口などを描いた装いで登場。

佳織 「こういう芸風の人なの」

俊介 「（か細い裏声で）コスメ太夫でございます」

佳織 「腕は私が保証する。一回ネタ合わせしてもらったらどうかになって。参考になると思うし」

石垣 「（戸惑いつつも、潔く）よろしくお願ひします」

× × ×

佳織と田村の前に、並んで立つ石垣と俊介。

石垣 「老後になったら老人ホーム入りたいなって」

俊介 「（か細い裏声で）あーなるほどね」

石垣、俊介のあまりの声の細さに戸惑う。

石垣 「……毎日ご飯も出てくるし、なんでもお世話してくれて」

俊介 「（か細い裏声で）でもちょっと難しいかもね」

石垣 「……なんて？」

俊介、吹っ切れてフェイスパックを取り、地声で、

俊介 「俺らが爺さんになる頃には、そういうのもう無理だわ」

佳織、思わず笑みが溢れる。

石垣 「……え？」

俊介 「その頃の老人ホーム、ちょっと見学してみる？」

石垣 「え、でさんの？」

俊介、コントインして、

俊介 「（老人のテイで）こんにちは、見学の方ですか？」

石垣 「えっと、介護士さんかな？」

俊介 「そんな人ここにはいませんよ」

石垣 「え？」

俊介 「うちでは入居しながら、互いの世話を互いに見るってシ

ステムでやってるから」

石垣 「あ、老老介護なんだ。ただの老人のシェアハウスだ」

俊介 「アンタ大卒？」

石垣 「あ、はい」

俊介 「料理とかする？」

石垣 「たまには？」

俊介 「じゃあ今日から帳簿の管理と朝ご飯の担当、ですね」

石垣 「俺のセカンドキャリアが勝手に始まった」

佳織、声を上げて笑う。涙が出るくらい、笑いが止まらない。二人、思わず漫才を止めて、佳織を見る。

10.

地区センター・大ホール（夜）

大爆笑している観客たち。

石垣・田村 「どうも、ありがとうございましたー」

佳織、客席で拍手している。

11. 地区センター・大ホール・舞台袖（夜）

出番終わりの石垣、俊介を見つけて、

石垣 「……ありがとな、さっき」

俊介、ゆっくり頷く。顔はテカテカ。

石垣 「あのさ、俺今、佳織と……」

俊介 「知ってる。大丈夫。俺、今結婚してるし」

石垣 「……お笑い、まだやってたんだな」

俊介 「コスメ太夫を知らないとは、まだまだだな」

石垣 「さすが俊介だ」

俊介 「おう。じゃあな」

と、立ち去る。石垣、その背中を目で追って、

石垣 「俊介、あの時漫才誘ってくれて、ありがとな」

12. 俊介の家・玄関（夜）

妻・川田真由（26）、帰宅した俊介に詰め寄って、

俊介 「ただいまー」

真由 「遅い。電話も出ないし。何してたの？」

俊介 「ごめんごめん。あ、これ買ってきたよ」

と、化粧品店の紙袋を差し出す。

真由 「……なんで開けてあんの。てかなんで顔テカテカなの？」

俊介 「俺さあ、芸人やってたんだよね昔」

真由 「は、何言ってるの？ 質問に答えろよ」

俊介 「（裏声で）コスメ太夫でございます」

真由 「何それ？ つまんな」

（おわり）